

第53回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1997年8月1日（金）10:00～10:20
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 近岡委員長、伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
（事務局等）加藤原子力局長、今村審議官
林政策課長、伊藤原子力調査室長
池本専門委員
政策課 山野
森口動力炉開発課長
原子力調査室 松尾、杉本、新井
4. 議 題
（1）動燃改革検討委員会報告書について
（2）その他
5. 配布資料
席上配布 動燃改革検討委員会報告書の概要
" 動燃改革の基本的方向（動燃改革検討委員会報告書）
" 動燃の体質及び組織・体制の改革に関する報告書
（動燃改革検討委員会報告書（別冊））
" 委員長談話（案）
6. 審議事項
（1）動燃改革検討委員会報告書について
標記の件について、近岡委員長より、
・本日、委員会に先立ち、科学技術庁長官として、動燃改革検討委員会の吉川座長より報告書を受け取った
・原子力委員会としては、本件に関し、動燃改革検討委員会の検討状況の報告を受けながら審議を重ねてきたが、今般報告書が取りまとめられたのを機会に、本報告書の内容を含め、今後の動燃改革への原子力委員会の取り組みについて審議してはどうかと考える
・まず、動燃改革検討委員会の報告書について、事務局から報告を受けることとしたい
との発言があり、事務局より席上配布資料に基づき報告があった。
これに対し、委員より、
・我が国の原子力政策に責任を持つ原子力委員会として、政策遂行機関としての動燃の改革は非常に重要な課題。本報告書は極めて意を尽くした立派なものであり、十分に理解できるもの
・原子力委員会として、動燃改革が適切、確実に行われるよう引き続き審議を行っていくが、報告書にある原子力委員会の本件に係わる責任、新法人の運営に果たす責務についての指摘を真摯に受けとめる
・少数意見の中で、今回の不祥事で直面することとなった危機はむしろ天の与えた機会と受けとめるとの意見に強い印象を受けた
・本報告書は重要で意義のある提言として受けとめる。新組織が21世紀に向かって核燃料サイクルの確立を目指す重要な役割を担っていくものと理解

- ・原子力委員会として、改革が適切かつ効果的に実現し、国民の負託に応えられる新組織の誕生を目指して審議を行っていくべき
- ・本報告書には原子力委員会の本件に係わる責任について言及されている。もんじゅ事故の反省に立って再発防止や改革のための努力がなされつつあるさなかにアスファルト固化処理施設の事故が繰り返されたことは返す返す残念であり、報告書における指摘を重く受けとめる
- ・原子力委員会として新組織の運営に係わる責務と原子力の信頼回復のため責任を果たしていく所存
- ・本報告は、広く21世紀の巨大科学技術の開発に携わる組織の性格と方向を示したものとして、単なる動燃改革を超えた大きなものがあると認識し、高く評価
- ・原子力のような巨大技術の開発においては、長期展望を明確にし、常に究極の姿を求める姿勢が大切である一方、現状を常に直視し、現実方策を準備し、状況の変化や計画の遅延に柔軟に対応することが大切であり、長計をはじめ、原子力政策策定の意義はここにある
- ・原子力開発の順調な発展には、明確な長期展望、柔軟な政策、実用化を支える科学技術、これらに加えて開発を実施する組織と人材がよくかみ合うことが大切。この面から今回の動燃改革は今後の我が国の原子力開発利用に大きな影響を与えるもの
- ・この改革に取り組むことは「災いを転じて福となす」との機会を与えられたと理解。原子力委員会が積極的に取り組むことは当然であるが、国民に開かれた原子力の観点から、広く国民の理解を得つつ、また、関係諸機関が積極的に協力して取り組むことが大切
- ・今回の報告書では動燃改革についての基本的な方向性が示された。今後はこれに魂を入れることが非常に重要。原子力委員会として今後とも新法人のミッションと改革の具体化について真剣に取り組んでいきたい
- ・将来に向けて原子力の重要性が変わるものではないが、動燃の今回の不祥事をきっかけとした現在の原子力に対する国民の不安、不信を重く受けとめ、現在ちょうど階段の踊り場状況にあると考えて、将来の原子力の原を新たに開くため、これまでの開発の過程における反省の上に立ち、原子力委員会としても国民の信頼回復を基本に、新たな覚悟と十分な政策的配慮をもって未来を築くことが大切

との意見があった。

その後、近岡委員長より

- ・本日を動燃改革の一つの節目にとらえ、原子力委員会の考え方を委員長談話という形で表明してはどうかと考えている
- との発言があり、席上配布の委員長談話（案）に基づき審議した結果、原案のとおり委員長談話を出すこととした。